

トビウオ通信 (H29 第 6 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 29 年度第 2 回日本海スルメイカ漁況予報》

平成 29 年 7 月 20 日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「平成 29 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報 1）」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(平成 29 年 8~12 月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

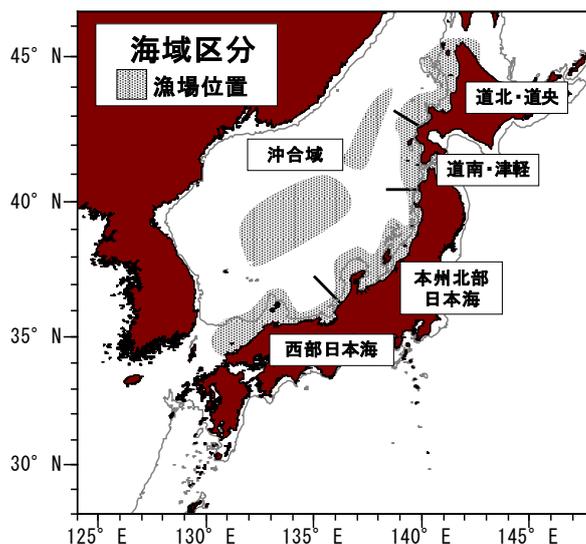
対象魚群：秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

(1) 全体のポイント

今期の全体の来遊量は不漁の前年並で、近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- 道北・道央の今期前半では前年及び近年平均並。
- 道南・津軽では、前年並で、近年平均を下回る。
- 本州北部日本海及び西部日本海では、近年同様、漁場が形成されにくい。
- 沖合域では、前年並で、近年平均を下回る。漁場は、北海道西沖で 8~11 月、大和堆周辺海域で 11~12 月に形成される。



☞ 近年平均は最近 5 年間(平成 24~28 年)の平均、前年は平成 28 年を示します。

日本海スルメイカ漁況予報の概要

平成 29 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表 1 のとおり 5 つの海域ごとに来遊量・漁況および漁期・漁場が予測されています。予報内容は、次の 4 つの情報に基づいています。

- (1) 平成 29 年 6 月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過

- (2) 平成 29 年 6 月下旬～7 月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果
- (3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの来遊状況²⁾
- (4) 漁期前半 (9 月まで) の海況予報³⁾

表 1 平成 29 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	今期前半は前年及び近年平均並。	8 月までと 11～12 月に来遊のピークがある。
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年並で近年平均を下回る。	8 月までと 11～12 月に来遊のピークがある。
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年及び近年平均並。	近年同様、漁場が形成されにくい。
西部日本海	福井県～長崎県	前年並で近年平均を下回る。	近年同様、漁場が形成されにくい。
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年並で近年平均を下回る。	北海道西沖で 8～11 月に、大和堆周辺海域で 11～12 月に漁場が形成される。

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」及び「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「平成 29 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海 (福井県～長崎県)

西部日本海では 5～6 月に沿岸域を北上し、10 月以降に沖合から南下する群 (秋季発生系群) が漁獲対象となります。ただし、近年はその南下群の 10～12 月の漁獲が伸びない傾向にあります。

西部日本海の 5～6 月の漁獲量は、前年及び近年平均を下回ったこと、また、日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、資源量指数 (釣り機 1 台 1 時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値) は前年及び近年平均を下回ったことから、近年同様、西部日本海では漁場が形成されにくいと予測されています。

(ii) 沖合域 (日本海中央部)

沖合域では従来、6～12 月にかけて大和堆周辺海域に、水温の高い 8 月下旬～9 月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、近年は漁場が北偏化するとともに漁期が遅れ、8 月～11 月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では 6～7 月及び 11～12 月に漁場が形

成される年が多くなっています。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、資源量指数は前年並で近年平均を下回ったことから、沖合域への来遊も前年並で近年平均を下回ると予想されています。

また、漁期・漁場については、今期前半の水温が「やや高め」と予測されているため、近年同様、北海道西沖で8～11月、大和堆周辺海域で11～12月に漁場が形成されると予想されています。

島根県沖での漁況

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成29年の1～6月までの水揚量は67トンで、同期間で比べると、前年（554トン）・近年平均（706トン）を大きく下回りました（前年比12%、平年比10%）。例年、島根県沖では1～3月に太平洋側から日本海に入り、南下してくる冬季発生系群を漁獲していますが、冬季発生系群の来遊量が極端に少なかったことが不漁の要因と考えられます。

島根県沖での今後の漁場形成は例年10月以降になると考えられますが、本県では特に平成21年以降、10～12月の漁獲量の落ち込みが顕著です（図2）。今期の予報でも西部日本海では漁場が形成されにくいとされ、島根県沖での漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

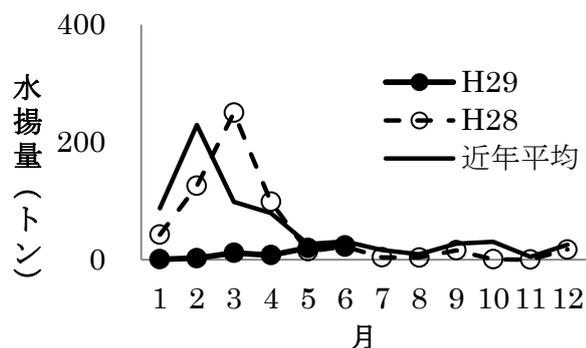


図1 主要3港(浜田、恵曇、西郷)におけるスルメイカの水揚動向(浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値)

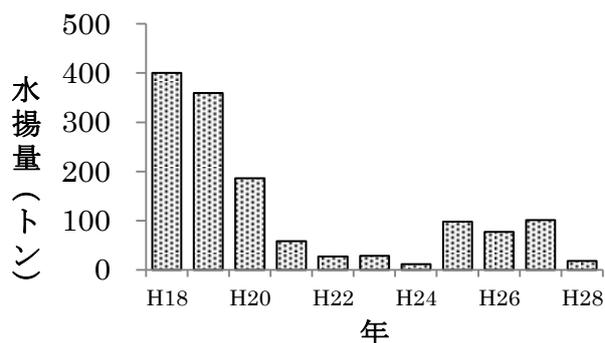


図2 主要3港(浜田、恵曇、西郷)における10～12月のスルメイカの年別水揚動向(浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値)

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「平成29年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報」平成29年7月20日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170720_n/20170720_n.pdf).
- 2) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「平成29年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報」平成29年7月20日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170720_t/20170720_t.pdf).
- 3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「平成29年度第2回日本海海況予報」平成29年7月7日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170707_n/20170707press.pdf).